

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900821		
法人名	特定非営利活動法人広輪会		
事業所名	高齢者グループホームはる ユニット1		
所在地	旭川市忠和6条5丁目1番21号		
自己評価作成日	平成25年9月23日	評価結果市町村受理日	平成25年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・家庭的な楽しい雰囲気
- ・人としての尊厳を重視すること
- ・グループ内での役割を提供
- ・買物や外出など市民生活の継続
- ・日々是好日に努めること

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900821-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年10月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新築の木造平屋建てに移転したグループホームで、敷地が広く市内が一望できて新緑や紅葉の季節感が感じらると共に共用空間は広く、ひとりになったり、談笑ができるように椅子やソファが配置され、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。また、敬老会では、民謡やお寿司職人などのボランティアや近隣住民、家族等が80名以上参加して、地元の人々との交流や事業所の取り組みなど理解して頂く取り組みを実践し、地域に密着した活動を行っている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の5つの基本方針を常に念頭におくようにしており、理念は館内に掲示している。	事業所独自の理念を作りあげ、毎月の全体会議や日常業務を通じて理念を共有し、その実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加、近所の方たちとの挨拶は欠かさない。代表者はゴルフ愛好会にも所属し、町内会主催の新年会などに参加し交流を深めている。	民謡やお寿司職人などのボランティアや近隣住民、家族等が80名以上参加する敬老会を開催して、地元の人々との交流や認知症に対する理解や啓発に取り組んでいる。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の公園や施設の周りを散歩することで、認知症への理解を図っている。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員の研修の成果、困難事例などを中心に報告を行い、意見を頂いている。	年6回を目安に運営推進会議を開催し、地域の困難事例などを話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所保護課、介護高齢課と連絡を介し、いろいろな面で協力をいただいている。	市担当者や保護課職員等と日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成25年7月1日、身体拘束防止委員会規定を作成し、全職員に周知する。	身体拘束防止委員会で研修を行い、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止推進委員研修会」に必ず職員が参加し高齢者虐待防止にも努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の利用者が成年後見制度を利用し、司法書士が任命されている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項などを説明し、疑問点などについても、充分に分かりやすく説明するようにしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特にそういった機会は設けてはいないが、利用者や家族の意見、要望はいつでも聞く体制にある。	家族会の開催や家族等の来訪時に意見や苦情・相談が言い表せる機会を設け、それらを運営に反映させるよう努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議や各ユニットごとに分かれて会議も開催し、職員からの意見や要望を反映させている。	全体会議やモニタリングを通じて、職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設け運営に反映できるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	引き続き、処遇改善給付金を申請し、実績に応じて給与に反映させている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に一回「介護スタッフレベルアップ研修」に二名ずつ参加(一泊二日)、又、参考にしたい研修会などには積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催の「グループホーム交流会」に参加し、他施設管理者と交流している。又、行事の際には、他の施設にも参加の呼びかけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんとの日々の関わりの中で何を思っているかを察知し、介護支援専門員を中心として利用者さんが過ごしやすい日々が送れるよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来所した時や電話が来た時を中心に、定期的に「家族への新聞」などを通じて、日々の様子を伝えることで関わりを深めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族それぞれの要望を介護支援専門員が中心となって聞き、いい方向に向かえるように状況作りに努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会議などで、常に一人ひとりのカンファレンスを行い、細かい所でも職員が意見を出し合い、利用者にとって過ごしやすい環境を考えている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いをよく聞き、日々の様子も伝えるようにし、家族との絆を大切にしながら、本人を支えている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人も気兼ねなく来訪できるような雰囲気大切にしている。	近隣公園への散歩や買い物、紅葉狩りやドライブなどで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに馴染みの関係を深め合い、支えられながら安心して過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、施設のドライブに同行した利用者もあり、今後も必要に応じ、関係を大切にしていきたい。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の個性を反映した、暮らしやすい部屋作りに努めている。	センター方式を活用して、一人ひとりの希望や意向、生活歴を把握し、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者家族と十分にコミュニケーションを図り、これまでの暮らし方、問題点などの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	血圧測定、保清(爪切り、耳掃除など)に努め、その人にあった支援をしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、毎月開くフロア会議で検討し、介護計画に反映するようにしている。また家族の来訪時には要望等も聞いている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、センター方式の活用や本人、家族の意見、モニタリングを通じて職員の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のフロア会議で各利用者の問題点を話し合い、アイデアなども出して、介護計画に反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに対応できるよう務めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くで獲れた旬の野菜や果物を食し、季節の変化を生活に生かす工夫をしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週に一度の訪問医と連携し常に報告等も行っている。又、家族や本人の希望する医療機関への受診等、事前に相談している。	医師の往診や通院支援、常勤看護師との連携で適切な医療が受けられるように支援している。また、受診は本人及び家族等の納得を得たかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師と連携し日々利用者さんの健康状態を報告しアドバイスを受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は利用者さんへの面会に努め、家族、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、まだまだ課題が多いが、できるだけ本人、家族の要望に沿った支援に努め、看取り介護も進めている。	看取りを実践していると共に重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡先などは見やすい所にあり、すぐに連絡できるようにしてある。初期対応の定期的訓練は必要と思われる。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に二回実施、運営推進委員会にも協力をお願いをしている。実際に消火器を使用したり、非常ベルも鳴らして行った。	年2回消防署の協力を得て、火災避難訓練や消火訓練を実施している。また、スプリンクラーや通報装置等の設備を完備し、定期点検も実施している。	今後は、緊急時に地域の人々の協力が得られるように協力体制構築を検討しているので、その実践に期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は職員の適切な言葉かけで、いつも元気で、明るく感じられる。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように働きかけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会議で個人個人がなにを希望しているか、どういう支援が適切かなどを話し合っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人を支援しながら、生き生きとした暮らしができるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から身だしなみには気を使い、外出、敬老会などの催し物には、場所に合わせた適切な服を着て頂くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら、一緒になって食材の買い出しや調理、食事の準備をしている。利用者の誕生日には本人の好みの物や食べたい物を提供している。	食材の買い出しや調理、食事の準備などで楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあつた水分量を摂ってもらい記録している。食事介助が必要な人は介助し、嚥下困難な人にはとろみ食、きざみ食にしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で歯を磨くことの出来ない人は、職員が行い、うがいを促し口腔ケアに努めている。義歯の洗浄は毎日行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を確認し、計画的に声掛けして、トイレ誘導し、少しでも失敗を減らせるよう支援している。	トイレで排泄できるように一人ひとりの力や排泄チェック表で排泄パターンを把握し、支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを一日一回摂取している。水分量の把握、天気の良い日は、散歩などに努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	各ユニットで入浴日をずらすようにし、週2回の入浴が可能となっている。	週2回を目安に一人ひとりの希望やタイミングに応じて入浴できるように支援している。また、拒否の強い本人にも対応した支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間も日中も、それぞれが安眠できる状況にある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月二回の訪問医との連携により服薬の確認をしている。又、変化が生じた時も、報告し、調整している。各自ファイルしてある薬の説明書を見て確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と買い物に行き、好きなおやつや洋服を買いにいたりする利用者もいる。希望により訪問美容を利用しパーマをかけたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5月には、花見、6月から9月は、外気浴、ラベンダー散策、10月には紅葉狩り、ドライブなどを実施している。	散歩や買い物、花見や紅葉狩り、ドライブ等一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者が金銭の自己管理が無理と思われ、必要なものは職員が購入し用意している。数名が本人、家族の意向によりご自身で管理している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に手紙を出したいという利用者には、職員が宛名などを代筆している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、居室などが分からなくなる人の為に大きく表示している。また、季節に合った飾りを一緒に作り、飾ったりしている。室温に注意し、居心地良く暮らせるよう支援している。	新築の木造平屋建てに移転したグループホームで、敷地が広く市内が一望できて新緑や紅葉の季節感が感じらると共に共用空間は広く、ひとりになったり、談笑ができるように椅子やソファが配置され、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内にあるウッドデッキは景色も見渡せ、快適な共有空間である。また、それぞれの居室も明るく居心地が良い。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が大切にしている仏壇、タンス、テレビなど、それぞれ好みの物を持ち込み暮らしている。	居室には、椅子や箆笥など使い慣れた家具などが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力を把握し、それぞれに合った支援を心掛けている。		

目標達成計画-1

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	家族、本人の意向に沿った終末期のあり方を考えていかなくてはならない。そのために、施設としてどこまでできるか検討していかなければならない。	本人、家族の意向に沿った終末期を迎えることができる。	施設での看取りをするときには、訪問看護、協力医療機関の医師との連絡を密にし、普段から連絡体制を整えておく事が大切である。	12ヶ月
2	2	現在、町内会には加入しているが、地域の一員として交流するには、不十分と感ずることがある。	地域の人達に気軽に来てもらえるような関係づくりをしていく。	町内会主催のお祭りに参加する。パレードなどを見学し、利用者さんに楽しんでもらう。	12ヶ月
3	35	年に2回の避難訓練は行っているが、地域協力体制は、整っていない。	災害時などに際し、地域の人達にも協力が得られるような関係を築き上げ、避難訓練時にも参加していただく。	近所付き合いを大切にし、町内会のゴミ拾い、除雪などに積極的に参加していく。施設で実施する各種行事等に参加していただけるようご案内する。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900821		
法人名	特定非営利活動法人広輪会		
事業所名	高齢者グループホームはる ユニット2		
所在地	旭川市忠和6条5丁目1番21号		
自己評価作成日	平成25年9月23日	評価結果市町村受理日	平成25年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な楽しい雰囲気 ・人としての尊厳を重視すること ・グループ内での役割を提供 ・買物や外出など市民生活の継続 ・日々是好日に努めること
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900821-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年10月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の5つの基本方針を常に念頭におくようにしており、理念は館内に掲示している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加、近所の方たちとの挨拶は欠かさない。代表者はゴルフ愛好会にも所属し、町内会主催の新年会などに参加し交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の公園や施設の周りを散歩することで、認知症への理解を図っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員の研修の成果、困難事例などを中心に報告を行い、意見を頂いている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所保護課、介護高齢課と連絡を介し、いろいろな面で協力をいただいている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成25年7月1日、身体拘束防止委員会規定を作成し、全職員に周知する。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止推進委員研修会」に必ず職員が参加し高齢者虐待防止にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の利用者が成年後見制度を利用し、司法書士が任命されている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項などを説明し、疑問点などについても、充分に分かりやすく説明するようにしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特にそういった機会は設けてはいないが、利用者や家族の意見、要望はいつでも聞く体制にある。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議や各ユニットごとに分かれて会議も開催し、職員からの意見や要望を反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	引き続き、処遇改善給付金を申請し、実績に応じて給与に反映させている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に一回「介護スタッフレベルアップ研修」に二名ずつ参加(一泊二日)、又、参考にしたい研修会などには積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催の「グループホーム交流会」に参加し、他施設管理者と交流している。又、行事の際には、他の施設にも参加の呼びかけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんとの日々の関わりの中で何を思っているかを察知し、介護支援専門員を中心に利用者さんが過ごしやすい日々が送れるよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来所した時や電話が来た時を中心に、定期的に「家族への新聞」などを通じて、日々の様子を伝えることで関わりを深めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族それぞれの要望を介護支援専門員が中心となって聞き、いい方向に向かえるように状況作りに努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会議などで、常に一人ひとりのカンファレンスを行い、細かい所でも職員が意見を出し合い、利用者にとって過ごしやすい環境を考えている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いをよく聞き、日々の様子も伝えるようにし、家族との絆を大切にしながら、本人を支えている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、場所との関係を継続することは少しづつ困難になってきている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士が、円満に交流し支え合える様に職員は常に意識し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談、支援等には前向きに取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の希望、意向を叶えられるように努力し困難な場合は、職員同士で十分に検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者家族と十分にコミュニケーションを図り、これまでの暮らし方、問題点などの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体操、健康管理を行い、少しでも体力の減退を防止している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、毎月開くフロア会議で検討しあい、介護計画に反映するようにしている。また家族の来訪時には要望等も聞いている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のフロア会議で各利用者の問題点を話し合い、アイデアなども出して、介護計画に反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに対応できるよう務めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回、地域の方に音楽活動に来て頂いているが、地域資源の活動は、もっと生かせる様に検討が必要である。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、固定されているが、家族、本人の希望があれば他の受診も可能である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師と連携し日々利用者さんの健康状態を報告しアドバイスを受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は利用者さんへの面会に努め、家族、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、まだまだ課題が多いが、できるだけ本人、家族の要望に沿った支援に努め、看取り介護も進めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡先などは見やすい所にあり、すぐに連絡できるようにしてある。初期対応の定期的訓練は必要と思われる。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に二回実施、運営推進委員会にも協力をお願いをしている。実際に消火器を使用したり、非常ベルも鳴らして行った。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は職員の適切な言葉かけで、いつも元気で、明るく感じられる。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い、希望を優先した支援に取り組んでいる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人を支援しながら、生き生きとした暮らしができるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を考慮した服装をし、外出の際は場所をわきまえた服装ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを取り入れ、献立を考えている。行事食に力を入れている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった水分量を摂ってもらい記録している。食事介助が必要な人は介助し、嚥下困難な人にはとろみ食、きざみ食にしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で歯を磨くことの出来ない人は、職員が行い、うがいを促し口腔ケアに努めている。義歯の洗浄は毎日行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ使用の利用者でも、トイレでの排泄ができています。オムツの利用者でもトイレでの排泄を検討中である。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを一日一回摂取している。水分量の把握、天気の良い日は、散歩などに努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各ユニットで入浴日を決めている。今後、利用者さんの希望、タイミングは検討必要。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間も日中も、それぞれが安眠できる状況にある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬準備の際は、二人の職員が相互で確認し、症状変化の際は、迅速に主治医に連絡している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と買い物に行き、好きなおやつや洋服を買いにいたりする利用者もいる。希望により訪問美容を利用しパーマをかけたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ周辺の散歩に努め、ラベンダー、紅葉の時期は、皆で外出している。地域への呼びかけは不十分な為、協力は得られていない。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者が金銭の自己管理が無理と思われ、必要なものは職員が購入し用意している。数名が本人、家族の意向によりご自身で管理している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に手紙を出したいという利用者には、職員が宛名などを代筆している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱なく、暮らすことができている。季節、行事に合った飾り付け等をして、楽しんで暮らしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内にあるウッドデッキは景色も見渡せ、快適な共有空間である。また、それぞれの居室も明るく居心地が良い。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が大切にしている仏壇、タンス、テレビなど、それぞれ好みの物を持ち込み暮らしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力を把握し、それぞれに合った支援を心掛けている。		

目標達成計画-1

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	29	地域資源を活用し、利用者さんの暮らしに反映しているとは、言えない。	町内会行事等には、できるだけ出席し交流する。	施設として地域との関わりを持つこと意識する。	12ヶ月
2	40	食事は楽しんでいるが、職員と共に料理、片付けはできていない。	簡単なお手伝いをさせていただく。	例えば、茶碗拭き皮抜き等、危険を伴わないことをお願いする。	6ヶ月
3	47	薬の知識は、完璧ではない。	職員一人一人が、薬に関心を持ち、見聞を広めていく。	会議等で薬の勉強をする時間を設ける。	12ヶ月
4	49	一人ひとりの希望に沿って、外出できてはいない。	できる範囲で希望をとり外出する。	普段の利用者さんとの会話から、行きたい所等の情報を得る。	6ヶ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。